

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070501590
法人名	有限会社 ダイテン福祉サービス
事業所名	グループホーム なかよし
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市小倉南区東水町6-7 (電話) 093-963-0650

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年9月17日	評価確定日	平成20年10月28日

【情報提供票より】(平成20年9月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7人, 非常勤 0人, 常勤換算 3.5人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円	その他の経費(月額)	(水費光熱費)21,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 500円				

(4) 利用者の概要(9月5日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	3名	要介護2	0名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.2歳	最低	72歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おのクリニック / かんざき歯科 / 松井病院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームなかよしは、小倉南区の閑静な住宅地に位置し、普通の一軒家のような佇まいで地域に溶け込んでいる。代表者は、ヘルパー派遣事業を行う中で、認知症の方の在宅での暮らしの大変さを痛感し、在宅と同じような環境の中で安心して暮らしを実現したいとグループホームの開設に至っている。グループホームの空間は、落ち着いた色調で、広くゆったりとしており、こだわりのインテリア(アートフラワー・番傘など)が配置され、快適な住空間となっている。地域との関係もよく、ホームが入居者・職員と共に一泊旅行の際には、近所の方がホームの留守番を申し出られたり地域の方々の協力がある。また、運営委員会は、陶芸教室などユニークな企画を立て、多くの地域の方が楽しく参加していただけるように取り組んでいる。ホームは、入居者が地域の中で近所付き合いなどを大切にしながら、これまでの暮らしが継続できるように支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果では、洗剤の置き場所が指摘され、洗面所や洗濯場の収納に関して、棚に扉や目隠しのカーテンで洗剤を隠すなど改善している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で、自己評価に取り組み、日々のケアの振り返りを行っている。また、自己評価により、マニュアルの整備や介護保険制度の理解を高めるなど取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営委員会では、入居者・家族・行政・民生委員・近隣の方々が参加し、ホームの行事報告だけでなく、身体拘束・権利擁護・後期高齢者医療制度の学習会を行うなど、高齢者ケアに関する情報提供を行う機会として活かしている。運営委員会は、入居者一人ひとりが地域の一員として暮らすことをモットーに、認知症の理解を育む場として大きな役割を果たしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族は、家族会で意見や意向を言ってもらえるように取り組んでおり、日常的には、来訪時や運営委員会の際に、家族とのコミュニケーションを図っている。また、日頃から様々な意見や相談などを言ってもらえるように取り組んでいる。入居者・家族から出された意見や要望は、運営に反映していくように取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームで一泊旅行に出かける際には、地域の方々から留守番を申し出られたり、散歩時や買い物の中で、挨拶を交わすなど日常的に良好な関係を築いている。運営委員会は、地域の多くの方々に参加し、ホームに対する理解と協力が十分得られている。地域行事に参加するだけでなく、地域の日本舞踊・尺八のボランティアなどの訪問があり、グループホームが一軒家として地域に認められ、自然で活発な交流を行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	理念は「安心・信頼・満足」を掲げ、入居者・地域の方々からも安心できる居場所・信頼できるホームを目指していることが理解できるが、平成18年の法改正により、理念に地域密着型サービスの役割を目指した内容が求められ、理念の追加・修正など検討が必要である。		平成18年の法改正により、地域密着型サービスの役割を果たす内容が求められ、地域の中で暮らし続けるためにどのような関係を地域と築いていくか、理念に盛り込む必要がある。(例、「地域との交流・ふれあいのもとで」など)
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	毎朝、夕方に全職員で理念を唱和し、安心して暮らせる場・信頼と満足を得られるように理念の実践に向けて取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	町内会に加入しており、入居者と職員で地域の広報紙を回覧している。日常的には、散歩や買い物の際に挨拶を交わす関係ができています。また、地域の行事(小学校の体育祭・町内清掃・花火大会など)への参加や地域ボランティアの受け入れなど、積極的に地域との交流を図っている。また、運営委員会では、多くの地域住民が参加し高齢者ケアに関する情報提供を行っている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価は全職員で意見を出し検討を重ね、管理者が集約した。自己評価により日々のケアを振り返り、見直しの良い機会ととらえ、自己評価を活かし取り組んでいる。また、前回の評価結果を受け、改善に向けて取り組んでいる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営委員会は入居者・家族(9人中5~6人)・地域住民・民生委員・地域包括支援センター・職員の参加で開催し、入居者の様子・行事報告を行うと共に、身体拘束・権利擁護・後期高齢者医療制度についての情報提供を行っている。時には日本舞踊・尺八の演奏などを行い、交流・ふれあいの機会にもなっている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	高齢者ケア・制度に関しての相談や判断に迷うような時には、市の窓口と相談できる関係ができています。また、行政の協力により、ボランティアの情報提供を受けています。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての資料やパンフレットを準備し、ホーム内で職員対象の学習会を行っている。また、必要な方には、制度について説明できるようにしている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	月に1度、ホーム便り「なかよしくよし新聞」を発行している。家族の来訪時には、入居者の暮らしぶりや身体状況などを話し、金銭管理については出納帳を提示し確認するようにしている。緊急時や状態変化の場合は、電話連絡をするようにしている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	家族は家族会で意見や意向を言っただけのように取り組んでおり、日常的には来訪時や運営委員会の際に、家族とのコミュニケーションを図っている。また、日頃から様々な意見や相談などを言っただけように取り組んでいる。入居者・家族から出された意見や要望は、運営に反映していくように取り組んでいる。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	ホーム内外で職員一人ひとりとゆっくり話ができる時間を設け、ストレスケアを行うなど職員が働きやすいように努めている。やむを得ず職員が交代する場合は、引継ぎの時間を十分にとり入居者に不安を与えないように取り組んでいる。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員採用に関しては、年齢・性別などを基準にしている。高齢者に対する基本的な接し方や協調性を大切にし、意欲を持った人を優先している。また、職員一人ひとりのスキルアップや自己実現(資格習得の機会)に向けての協力体制も整えている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	人権に関する内部・外部研修に積極的に参加している。「公正な採用選考に向けて」というテーマで内部研修を行ったり、高齢者だけではなく、子供の人権・障害者の人権・同和問題など幅広い視点で、人権学習に取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	全職員が内外の研修を受ける機会を十分確保している。特に人権・成年後見制度・認知症などに関する研修に積極的に参加し、資料がファイルされている。参加できなかった職員にも必ず伝達し、研修内容を共有するようにしている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	近隣のグループホームとの交流を行っている。管理者と職員で、相互訪問や見学実習などを通して、サービスの質の向上を図っている。今後、合同の研修会の実施を検討している。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居希望があれば、体験入居が可能で、本人・家族が安心して入居できる体制を整えている。体験できない方に関しても家族と共に見学し、食事やお茶の時間を利用して雰囲気を味わっていただくようにしている。また、状況に応じて入院先の病院や自宅を訪問し面接を行うなど、本人・家族が納得して入居できるように支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	職員と入居者は、朝食の準備や買い物の手伝いなど、その時その時の状況に応じて、入居者の力を発揮していただけるよう取り組んでいる。日々の暮らしの中で、入居者に気づかっていたり、入居者と職員が支えあう関係を築いている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	入居者とゆっくり話せる機会をつくり、意向や希望を把握できるように努めている。意思疎通が困難な場合は、表情や行動で読み取るようにしている。また、情報収集シートや家族の協力を得るなど、入居者一人ひとりの思いや希望にそった暮らしができるように取り組んでいる。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	担当者会議にて、本人や家族の意向・希望を把握し、一人ひとりの状況(業務日誌の中に記入された入居者本人の様子など)を振り返り、総合的に分析し、入居者の状態に応じた介護計画を作成するようにしている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	2ヶ月に1度スタッフ会議を行い、3ヶ月毎に計画の見直しを行っている。また、入居者の状況の変化によって随時見直すようにしている。主治医との連携があり、在宅医療計画書により、入居者の健康面の管理が行われている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	年1回、職員・入居者と共に1泊旅行に出かけるなど、年1回の旅行を実施している。また、運営委員会は地域との連携を図る機会としてとらえ、ユニークな企画により参加を楽しんでいただけるように取り組み、グループホームならではのケアの経験や実績を活かし地域福祉に貢献している。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人や家族が希望するかかりつけ医が受診できるように支援している。受診や通院は、本人や家族の希望に応じて対応している。家族同行の受診が困難な場合は、職員が代行するようにしている。また、2週間に1度往診があり、適切な医療を受けられるように支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化やターミナルに関しては、概ね契約時に説明している。また、家族の協力もあり、医療と連携しながら往診してもらえ、今のあるところ病院を希望される本人や家族が多い。ターミナルの具体的な検討が期待される。		今後は、終末期対応に向け家族の協力や訪問看護の利用が必要である。入居者の今後の意向や希望にそった終末期を支援していくために、医療連携加算を検討し、重度化や終末期に向けた具体的な方針検討を期待したい。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	日々の関わりの中で、入居者の誇りと尊厳を損ねないように言葉かけに注意をしている。個人ファイルや記録類も、他者の目に付かないように事務所に保管・管理されている。トイレ誘導など、本人がはずかしめを受けないように言動に注意をしている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過し方はしていない。起床・散歩・外出・買い物など入居者の希望にそった個別の支援を行い、入居者のペースを尊重したケアを行っている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食材の準備や配膳・盛り付けは声かけし、入居者になるべく行っていただくように支援している。入居者の中には、自らの役割として、エプロンを付け厨房に立ち、手伝いをされる方がいる。食事は、庭の菜園で栽培した野菜で料理を行うなど、食事が楽しいものとなるように取り組んでいる。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	浴室の大きな窓から、浴室専用の庭園が見え、気持ちよく入浴できる環境となっている。入浴日の設定はあるが、入居者の希望に合わせ、毎日、入浴できるように支援している。拒否される場合は、無理強いをせず様子を見ながら促すようにしている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	生活歴の中から興味を引き出し、生きがいのある暮らしを支援している。入居者には、これまでの生活歴を活かし、庭の草木の剪定や畑の種まき・配膳の盛り付け・掃除・買い物荷物の持ちなど、入居者がその人らしく暮らすことができるように支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	入居者の希望や天候に配慮しながら、毎日散歩を行っている。週2回の買い物や外食・ドライブ、年に一回の泊旅行などが計画され、外出や旅行を楽しんでいただけるように支援している。また、近隣の方との関係ができていますので、旅行中の留守番や散歩中の見守りなどの協力が得られている。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	職員は、鍵をかけることの弊害を理解している。日中、鍵をかけることはない。入居者の外出の傾向を察知したり、帰宅願望の強い方に関しては、一緒に外出し、納得されるまで一緒に外出するなど鍵をかけないケアを実践している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年に1回消防署や地域の方々の協力を得ながら、防災・消火訓練を実施している。また、救命救急講習を開き、事故防止のための理解を高めている。		マニュアルの整備・非常食や備品の準備をしたいと考えている。また、今後は年2回の消火訓練を実施したいと考えている。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	栄養摂取量は、1日1300～1500calを目標にしている。メニューは、入居者の希望を聞きつつ、医療情報や主治医の指示などを参考に作成している。また、職員も一緒に食卓を囲むことで、入居者一人ひとりの食に関する状況を把握している。		今後、水分摂取量の目安を確認し、適切な水分摂取量を取っているか、確認が求められる。
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
を					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	リビングの天井には大きな灯り取りの窓があり、開放感溢れる空間となっている。共用空間には、至る所に季節を感じる花や入居者の作品が飾られ、キッチンからは食事の準備の音や香りが漂い生活感がある。窓に付けられたロールカーテンや空調機により、居心地よく過ごせる空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室には、なじみのある装飾品・家具・仏壇・写真などが持ち込まれ、一人ひとりの個性ある部屋となっており、安心して暮らせるように環境づくりに配慮している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			